

進路に向けて

校長 矢野 毅 吉

進学（全日・多部・定時・通信制）、就職、専門学校的な学校やインターネットで学べる学校…。以前に比べ、“進路”と言っても随分選択肢が広がり、昔と同じ考え方ではついていけなくなりました。

しかし、進路に悩む保護者の方々や、子どもたちの気持ちは何年たとうが似ているのではないのでしょうか。「進路先は?」「高校進学だが、どこの高校がいいのか?合格の可能性は?」「受検勉強ってどんな勉強をすればいいの?」「合格しなかったらどうしよう」「親や先生がうるさい」など、悩み、不安が尽きないのはきっと同じです。やがて一足先に進路が決定した人まで出てきたのに、自分はまだ迷っている。他人ばかりが素晴らしく見え、不安になる。不安があるからゲームやスマホで気を紛らわせ、それを見た親からは「勉強しなさい」と言われ、日々だけは過ぎていく…。どうですか?心当たりはありませんか?

残念ながら、「こうすれば進路は必ず開ける」というものはありません。しかし、私自身役立った心構えや、アドバイスは多くの先達が残してくれています。幾つかあげてみましょう。

1 結局『意志』の力がものをいう。

勉強だけでなく、どんな仕事や習い事にも必ず途中で悪魔の囁きがあります。「このやり方でいいんだろうか?」「そもそも高校行かなあかんのか?」「やめたら楽になるよ」など。それを乗り越えるのは「いいや、自分はこれでいくと決めたんや!」という意志の力です。悪魔の囁きに負けてはいけません。

2 家に帰って最初に座る場所は大きい。

あなたは家に帰ってまずどこに座っているでしょう?テレビの前?食卓?自分の部屋のベッド?机に向かうけど、まずスマホチェック?帰ってすぐ何と向かい合うかだけでも生活が変わります。

3 ご家族と進路の話は欠かせない。

「話してもすぐけんかみたいになる。」と進路の話を切り出せない時があります。それでも親御さんと進路の話は欠かせません。「自分はこうしたい」という思いをしっかりと話せば、きっと応援してくれます。

4 人は人、自分は自分。

たとえ親友であっても進路先が違うことがあります。性格も特性もあなたと人は違います。人がうらやましく見えたりすることもあるでしょうが、自分は自分です。

5 蒔かれたところで咲きましょう!

ひょっとすると、第1志望ではない進路先になることもあります。残念かも知れませんが、ひがんだり、自分は終わったと思わないことです。人はそれぞれ、蒔かれたところで精一杯頑張って花を咲かすしかありません。悔しいのであれば、それをエネルギーに次の進路決定の時、挽回すればいいだけです。

6 日々の授業は大きな受検勉強。

最も長い時間学習しているのは学校での授業だという人が多いと思います。その時間を大切にすることとしないのでは、少しずつ差が出てきます。授業や課題を大切にしましょう。

7 先生方は皆さんの応援団です。

困っていることは幾人もの先生に聞いてみましょう。先生方は皆さんの味方になって、話を聞いてくれると思います。及ばずながら校長先生も協力します。

8 想像力は創造力。

進路先での自分の生活を想像する。写真を飾ったり、情報を集めたり、HPを眺めることでエネルギーが湧き、やがて、そこにいる自分を創造する力になるかも知れません。

以上です。少しはアドバイスになったでしょうか?

最後に保護者の皆様も焦りやお悩みの点はあろうかと思いますが、どうかお子さんのために、学校と共に連携していきましょう。どうぞよろしく願いいたします。

(追記・高校入試の場合、多くを正式には学力検査ということから、受検の字を用いました。)